

第226回 番組審議会

1. 日 時 平成25年10月8日(火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 11名
出席委員数 9名(欠席委員数 2名)

○ 出席委員(敬称略)

中村 慶久(委員長)
竹中 陽一(副委員長)
—以下50音順—
木戸場 美代子
加藤 裕一
久慈 浩介
原 圭介
八木橋 伸之
役重 真喜子
吉田 浩次

○ 会社側出席者(7名)

佐藤 滋樹(代表取締役社長)
小原 忍(専務取締役)
前田 秀男(取締役技術局長)
藤原 銀司(取締役営業局長)
工藤 浩(取締役総務局長)
太田 秀樹(岩手めんこいテレビ報道部副部長)
藤堂 光隆(岩手めんこいテレビ報道部主任)

○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議題 『mit スーパーニュース 災後2年半スペシャル 響け!復興の槌音2013』

平成25年9月11日(水) 16:50~17:54放送

5. 議事概要

今回は、9月11日(水)午後4時50分から放送された「mit スーパーニュース 災後2年半スペシャル 響け!復興の槌音2013」を審議しました。議事の概要は以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ 太田プロデューサーからの説明

・めんこいテレビの報道部は、震災報道に真摯に取り組み被災地・被災者に寄り添ったニュース、番組を継続的に放送していくことを掲げている。今回の特番を制作するにあたり被災地、被災者に寄り添うこととはどういうことなのか、そのために番組で何ができるのかという点からスタートした。

・今回はできるだけ客観的な視点、数値を示し被災地の現状と課題、復興のために解決に至る手法なども紹介したいと思い制作した。

●岩手めんこいテレビ 藤堂ディレクターからの説明

・「震災から2年半」をどういう位置づけにするか一番悩んだ。
被災地の報道が減っている中、まずやらなければならないことは「放送し続けること」だと考えた。

・一番重きを置いたのは「住まいの再建」。住民の声を届けることが大切だと考え、仮設住宅の中から中継を行った。

出演して頂いた方々には「多くの県民に実情を知ってもらいたい」という主旨を理解して頂き実現した。

●出席した委員からの意見

・まじめな丁寧な作りで、被災者に寄り添った視点を持って作られた番組だった。

・迷いながらも誠実に番組を作っている姿勢が伝わった。課題提起、世論の関心を提起する意味で9月11日に番組を放送したことは大きな意味があった。

・全体的に内容がぎっしり詰まっていたコンパクトにまとめられていた。「寄り添う」という面では非常に成功していた。

・仮設住宅からの中継は、被災者の今の生活が伝わるテレビの特性を生かした手段だった。

・とても見ごたえがあり予定通りに復興が進んでいないことがよくわかった。番組の内容が盛り沢山で良いところもあったが、より深く知りたいと思うところもあった。

・番組の構成としては仮設住宅から中継し、その中から住宅問題、復興の遅れにつなげる流れの方がスムーズだったのではないかな。

・復興の遅れはどこに原因があるのか、対案を示唆するためにも行政の声を聞くことが必要だったのではないかな。

・震災報道というと、マイナスの要素が多く取り上げられるが、希望が持てるような切り口も入れてほしい。

・これからも震災の番組を作り続けてほしい。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

* 平成25年10月9日(水) 産経新聞 東北版

* 平成25年10月20日(日) 午前4時15分から4時30分まで「めんこいテレビ 批評」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし